

TOPICS 病院祭開催のご案内

日ごろより大須病院に対し、ご理解・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。
 地域住民の皆さまとの交流を深め、日ごろの感謝の気持ちをお伝えしようと思い第1回大須病院病院祭を10月に開催させていただく予定です。
 この地で大須病院の前身である東海通信病院が産声をあげたのが1971年。時代は移り変わり、昨年10月に大須病院となりましたが、当院は地域の皆さまの身近な存在であり続けたいとの思いです。
 皆さまが楽しみいただける内容を用意しておりますので、奮ってご参加ください。

TOPICS ホームページリニューアルのお知らせ

いつも大須病院のホームページをご利用いただき、誠にありがとうございます。
 このたび、ホームページを全面リニューアルいたしました。今回のリニューアルでは、より分かりやすく使いやすいホームページを目指して、デザインやページの構成を見直しました。
 今後も多くの皆様にご利用いただけるサイト作りを目指し、内容のさらなる充実を図り、より活用しやすい情報提供を行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。
 今まで利用いただいていたホームページのURLと変更はございませんので、そのまま閲覧することが出来ます。
 今後とも大須病院のホームページをご活用賜りますようお願い申し上げます。

こちらのQRコードからアクセス



ACCESS

交通機関からお越しの場合

- 電車**
 地下鉄鶴舞線 「大須観音」駅 下車 徒歩 10分
 名鉄本線 「山王」駅 下車 徒歩 10分
- 市バス**
 市バス「日置橋」停 下車 徒歩 7分
 市バス「岩井通一丁目」停 下車 徒歩 5分

駐車場のご案内



※からだの不自由な方のご利用は本館北側正面玄関前に駐車スペースがございますので守衛室にひと声おかけの上、駐車してください。

編集後記

昨年9月に名古屋へ転勤となり早1年が経過しました。
 名古屋はとても居心地がよく食べ物も美味しいので5キロ太ってしまいました。
 休みの日は病院近くのジムで汗を流す日々です。
 まだまだ名古屋の良いところを知りたいので是非教えてください！（経営企画室 草場）



〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原2丁目17番5号
 代表電話 :052-212-8981
 総合健診センター:052-212-8403
 ホームページ <https://osu-hp.keimeikai-gp.jp/>



地域を愛し、愛される病院



おおす

ご自由にお取り下さい

医療法人桂名会大須病院 広報誌 1号(2022年 8月 発刊)

- 救急科の紹介
- TOPICS

特集

夏に多い疾患

気象病/脱水・熱中症/プール熱



環境は私たちの身体に影響を及ぼします。外の環境変化に対応し体内環境を一定に保つため自律神経が働きます。

自律神経は活動時に関わる交感神経と休息に関係する副交感神経の2種類に分けられます。外の環境に合わせる2つの自律神経バランスが乱れると体調が悪化します。これに心的ストレスが強く関わるのがいわゆる自律神経失調症です。

外の環境とは気温、湿度、気圧、季節が含まれます。この内、気温や湿度はエアコンで調整できても気圧や季節はコントロールできませんね。

痛みを患う方がよく経験するのは気圧の変化による痛みの増加ではないでしょうか。

頭痛、脳卒中後のしびれ、外傷後の傷、関節リウマチ、腰痛、神経痛などお持ちの方は、雨が降る前に痛みが強くなる方もおみえだと思えます。これをいわゆる「気象病・天気痛」と称している人もいます。

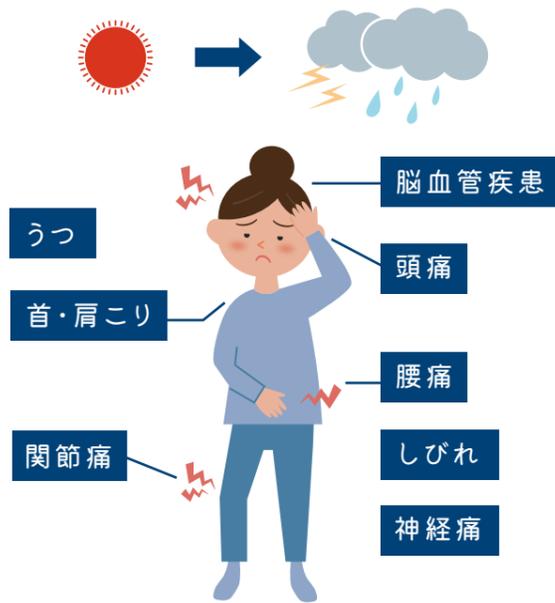
痛みは他人からわかりにくいいため気のせいとか軽くとらわれてしまう事がありますね。

痛みは気分が良いと弱く気持ちが落ち込むと痛みを強く感じてしまいます。痛みが先か気持ちの低下が先かわからないのですが、痛みが続くと気持ちが落ちこみ、更に痛みが増加するという負のスパイラルに陥ってしまう方もおられます。

このように痛み止めだけで効かない場合、気持ちの落ち込みを治す薬を処方したり、自律神経を整えるような規則正しい生活や運動、睡眠、食事、呼吸をする事で症状を軽減させることもできます。自律神経は調節不能ではなく特に運動や呼吸法によって意識的に変化させる事ができるのです。

気象・気候・季節に関係しそうな体調不良があれば病院受診をおすすめします。脳神経内科の扉を叩いていただいても良いかもしれません。

起こりがちな症状は



自律神経を整えるには



診療科紹介 救急科

みなさま初めまして、大須病院救急科です。本年度4月より救急科をたちあげました。大須を中心とした名古屋市中区の2次救急病院として、地域住民のみなさまから「行くなら大須病院」と言われる存在になれるよう努力して参ります。急な体調変化やけがなど、何かお困りごとがあればお気軽にご相談しにきてくださいね。



東海地方は例年より3週間も早く、6月末に梅雨明けが宣言されました。その後は、最高気温が38℃を超える日もあり、熱中症と思われる症状で当院の救急外来を受診される方も増えています。

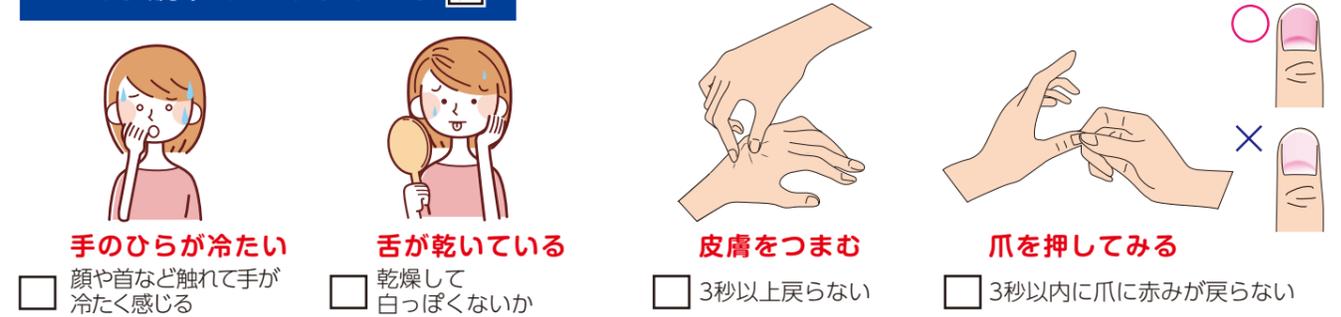
熱中症対策

熱中症対策はエアコンなどで室温を管理することが重要ですが、脱水にならないようにすることも必要です。最近よく聞くキーワードとして、“かくれ脱水”というものがあります。口の中や皮膚が乾燥したり、立ちくらみがあったり、いつもより集中力が低下したりします。高齢の方は、のどの渇きを感じにくいことがあり、時間を決めて水分を摂るようにするとよいでしょう。いつもと様子が違うときは、いつでも当院までご相談ください。

“かくれ脱水”のサイン



“かくれ脱水”チェックリスト



2020年は新型コロナウイルス感染予防対策で人との接触が減り、インフルエンザやRSVなどの感染症が全般的に減少しました。昨年は免疫がない乳幼児が増えたことや人の流れが戻りつつあることでRSV感染症の流行がみられ、今年はプール熱も初夏から増えてきています。

症状、検査所見

潜伏期は5～7日で39度以上の発熱が5日間位続き、咽頭炎、結膜炎を伴います。抗原検出キットが診断に使用されています。血液検査でCRPが高値となるため、細菌感染症との鑑別が重要です。

治療

抗ウイルス薬はありません。対症療法を行います。

予防

ワクチンはありません。アデノウイルスはエンベロープという脂の膜を持たないためアルコール消毒や熱消毒に抵抗性で環境の中で生き残ります。患者の唾液や目やにから直接感染するだけでなくプールの水や共用タオル等を介して感染しますので、手洗いやマスクに加えてプールの十分な塩素消毒やタオルの共用を避けることも大切です。症状がなくなった後も2日間は出席停止です。

